

個別の指導計画 文例集



船橋市総合教育センター 教育支援室

	実態	手立て	評価
計算	筆算式では位を揃えて書くことが苦手で正しく計算することが難しい。	・マス目のあるノートや、位取りの縦線が入った補助教材を使用する。 ・計算手順を視覚化したカードを手元に置く。	枠があることで位が揃い、計算ミスが減少した。
計算	足し算や引き算に時間がかかる。プリントが終わらない。	・問題数を減らし、時間内に終わらせる量を設定する。 ・「全部やる」ことより「丁寧に解く」ことを評価す	最後までやり遂げる達成感を味わうことができ、意欲が持続した。
計算	数の概念理解が難しく、計算ができない。	・おはじきやブロック等の具体物を用いて、数と量を一致させる操作を行う。	具体物を操作することで数のイメージがつかめるようになり、解ける問題が増えた。
計算	九九が覚えられない。	・九九表を手元に置き、見ながら計算しても良いことにする。	「覚えていないとできない」という不安が解消され、計算の手順に取り組みやすくなった。
推論	学習内容がほとんど理解できず、簡単な計算や漢字の読み書きができない。	・本人の習熟度に合わせた個別課題(復習プリント等)を用意する。 ・スモールステップで課題を設定する。	「わかる」「できる」課題に取り組みやすくなり、学習への参加意欲や表情に明るさが見られた。
推論	一斉指導では課題に取り組みず、個別に声かけが必要。	・別のプリントを用意する。	「わかる」と感じて本人は意欲的になった。表情が明るくなった。
推論	プリントなど文字や数字が多いと見ただけでやる気をもてず、投げ出してしまふ。	・プリントを折る、隠すなどして、一度に見える問題数を減らす。 ・「ここまでやったら終わり」とゴールを明確に示	視覚的な圧迫感が減り、少しずつ課題に取り組みやすくなった。結果として量をこなせるようになってきた。
推論	友だちに負けるとパニックになる。	・勝敗よりも「プロセス(頑張ったこと)」や「ルールを守ったこと」を評価する。	気持ちの切り替えが早くなり、パニックからの立ち直りがスムーズになった。
推論	英文での質問に対する解答を自分で考えることが難しい。	・質問を平易な語や表現に言い換える。 ・解答する際にヒントとなる情報や選択肢を提示する。	簡単な表現で答えられるようになった。
推論	危険を伴う学習活動において自ら危険に気付くことが難しい。	・教師の目の届く範囲で活動させる。 ・何が危険かを、写真やイラストを用いて具体的に事前指導する。	具体的なイメージを持たせたことで、危険な行動を避ける意識が高まった。
推論	文章題や推論が苦手。	・問題文のキーワードに線を引く、図や絵に書き換える支援を行う。 ・必要な情報を色分けするなどして視覚化する。	情報を整理する手法を得たことで、自力で解く手がかりをつかめるようになった。
推論	計算手順をイメージできず立式することが難しい。	・視覚的に手順を示す。 ・手順が示されたワークシートを活用する。 ・公式のカードや手順表を活用する。 ・計算手順が分かるようなワークシートを用意する。	手順表を使いながら、少しずつ立式できる問題が増えてきた。
推論	立体図形のイメージが難しい。	・実物の模型やブロックを触らせる。 ・頂点や辺に色をつけたり、番号を振ったりして対応関係を明確にする。	具体物に触れながら考えることで、図形の性質を理解しやすくなった。
推論	物語の中で登場人物の立場で考えたり他者の感情を理解したりすることが難しい。	・気持ちの変化が分かる文章の中のキーワードを示す。 ・感情を示すキーワードや表情が書かれたカードを用意する。	キーワードを頼りに、登場人物の感情を理解することができた。
推論	文章を読み取ったり要約したりすることが難しい。	・話のイメージ(流れ)をつかみやすいように、ポイントとなる場面のイラスト(挿絵)を追加する。 ・物語の読み取りにおいては、気持ちを表す言葉をカードに書いて示す。 ・比喩やイメージを表す言葉は分かりやすいように同じ色のカードにして視覚的に示す。 ・文のまとまりごとのキーワードを付箋に書き出し、グループごとに並べ替えをして視覚的に整	イラストを頼りに、文章の大まかな意味を理解することができた。
運動	運動の協調運動が苦手(不器用)。	・動画を撮って自分の動きを確認させる。 ・動きを分解して、スモールステップで練習する。	自分の動きを客観視し、無理のない範囲で参加することで、運動への苦手意識が軽減された。
運動	まひ等により身体を動かすことが難しい。	・用具やルールを変更する。 ・準備運動や補強運動に取り組み機能の向上を図る。 ・本人ができる動きを生かして、仲間と積極的に活動できるように用具やルールを調整する。	自分ができる範囲で楽しく学習に参加することができた。
運動	旋律やリズムをイメージして正しく演奏することが難しい。	・リズムを馴染みのある言葉に置き換えたり、旋律の音の動きをジェスチャーで表現したりし	言葉を使うことで、リズムに合わせて演奏できるようになってきた。
運動	聴覚過敏があり、特定の音や環境音が苦手。	・イヤーマフや耳栓の使用を認める。 ・スピーカーや楽器から離れた座席にする。 ・机の脚にテニスボールをつけて騒音を減ら	嫌な音を物理的に遮断・軽減することで、安心して学習に集中できる環境になった。

	実態	手立て	評価
聞く	音声を聞き取ることが苦手で英単語を聞き分けることが難しい。	・イラストと英単語をセットで提示し、視覚情報を補う。 ・必要に応じてカタカナでルビを振るなど、読みの補助を行う。	視覚的な手がかりがあることで、英語の音声と意味を結びつけやすくなった。
話す	声の大きさや話す速さを調整することが難しい。	・自分の声を録音して聞かせ、客観的に確認する機会を作る。 ・手拍子やメトロノーム等でリズムや間を体感させる。 ・モデル提示を行う。	自分の話し方を客観視できたことで、調整しようとする意識が生まれ、改善が見られた。
話す	声に出して発表することや人前で話すことに不安を抱いてしまう	・筆談、ボード提示、スライド、読み上げ機能など、発話以外の発表手段を多様に用意する。 ・スモールステップで安心感を高める。	「話さなくても参加できる」という安心感から、授業への参加意欲が向上した。
読む	文章を目で追いつながら音読や黙読をすることが難しい。	・リーディングスリット(読みたい行だけ見える道具)や指なぞりを活用する。 ・拡大教科書や行間の広い書体のものを使用する。	視点の移動がスムーズになり、行を飛ばさずに読めるようになってきた。
書く	ひらがなを書くことが難しく、書くことを嫌がる。	・タブレット端末等のICT機器を活用し、入力や撮影で代用する。 ・なぞり書き等の負担の少ない課題にする。	書くことへの抵抗感が減り、学習に取り組むハードルが下がった。
書く	文字(ひらがな・漢字)が書けない、苦手。	・なぞり書きプリント(薄い字、点線)を用意する。 ・ICT機器での入力や選択式の回答を認める。 ・書く分量を減らす。	名前の自筆ができるようになったり、ICT活用で表現の幅が広がったりした。
書く	カタカナを覚えることが苦手である。	・興味のあるキャラクター等の名前を宿題プリントにする。必要に応じ、読み仮名を振ったりカタカナ表を用意する。	楽しんで取り組んでいる。筆圧が強くなってきた。
書く	カタカナや小2程度からの漢字を書くのを苦手としている。	・好きなキャラクターの名前をカタカナで書く練習をする。 ・日常でよく使う言葉(教科名など)から練習する。	カタカナは一年間で全て書けるようになった。日記など以前よりも自分の書きたい内容を書けるようになってきた。
書く	漢字が苦手で、マスからはみ出す、字形が取れない。	・マス目の大きなノートを使用する。 ・十字リーダー入りのマスや、筆順ごとに色分けされた手本を用意する。 ・下書きをなぞらせる。	視覚的な補助があることで、枠を意識して字形を整えて書けるようになってきた。
書く	漢字を書くことに苦手意識があり、板書を写すのが苦手である。	・近くで確認しノートをとれるように、できる範囲で板書内容のプリントを用意する。様子に応じ、板書をするのではなくタブレット型端末で板書を撮るなどにかえる。	スムーズに書き写しができるようになった。
書く	漢字が覚えられない。漢字テストの結果が点数が悪かったり、バツが多いと大声で泣き叫ぶ。	・事前に出題範囲を限定して予告する。 ・間違いをバツにするのではなく、正しく書けた時に青丸をつけるなど、加点法で評価する。	「頑張ればできる」という成功体験により、パニックが減り、意欲的に取り組むようになった。
書く	漢字が苦手で、正しく書けず、線の本数が多くなってしまう。	・書き順を個別で一つずつ確認しながら指導し、できたら褒めるようにする。	「そう書くのか」と納得し、正しい形を少しずつ覚えられるようになった。
書く	漢字を覚えること、書くことが苦手。漢字テストは一文字も書けない。	・毎日、漢字テストの中の2問ずつ練習し、翌日そのテストを行う。それを繰り返す。	「自分はできない」という思い込みや漢字に対して自信がなかったが、2問ずつ行うことで正解ができ、自信がついた。
書く	漢字を書くことが苦手(丁寧に書けない)なため、字を書くことが嫌いになっている。	・漢字ドリルやノート練習に取り組むときは、負担にならない量を設定する。丁寧に書けたことや頑張った様子を褒める。	量を調節したことで、丁寧に書くように意識できるようになってきた。
書く	漢字が苦手で50問テストで点数がとれない。	・本人や保護者と共通理解をした上で、答えを見ながらテストに取り組む。	はじめは戸惑っていたが、目当てを切り替えて、最後までテストに取り組めるようになった。
書く	板書が写せない。	・写すところを少なくし、教師が示したところを写すようにする。	やることははっきりして書き続けられた。
書く	ノートがとれない。	・タブレット型端末やパソコンで黒板を撮り、印刷したものをノートに貼る。また、できる範囲で板書内容のプリントを用意する。	授業の中で焦ることなく、取り組めるようになった。
書く	板書をノートに写すことが苦手でどこまで書いたのか分からなくなってしまう。	・途中までは教師が書いておき、児童は必要最低限の言葉を書き込むようにする。	時間内に写すことができるようになった。
書く	書くことへの苦手意識が強く、あまりノートや連絡帳を書こうとしない。書き始めてもすぐに集中力が切れてしまい、手いたずらをしてしまう。	・業間休みなどに個別にサポートする。 ・漢字学習では、頑張っている様子を評価し、花丸をあげるようにする。	他の子よりも先取りして書けることが嬉しく積極的にノートや連絡帳を書けるようになった。花丸をもらえることでやる気につながり、漢字学習に取り組む時間が増えた。
書く	板書やノートを書き取ることが苦手で作業が遅くなってしまう。	・教師が手本を用意し、それを隣に置いて書くようにする。	スムーズに書けるようになり進んで書くことが多くなった。
書く	算数の計算問題を黒板からノートに書き写すことが遅い、難しい。	・教師が書き出しの位置や文字を伝えたり、代筆したりし、その続きを児童に書かせる。	学習する時間が増えた。
書く	板書を写すのが苦手である。	・板書事項をプリントして配布する(穴埋め形式など)。 ・タブレットで黒板を撮影することを許可する。 ・書く量を減らし、要点のみにする。	書くことに追われず、授業の内容理解に参加できるようになった。焦らずに取り組んでいる。
書く	自分の気持ちを言葉や文章で表現できない。人に伝えられない。文章(作文)が書けない。	・書き出しの定型文や、構成の型(フレームワーク)を提示する。 ・マインドマップや付箋を使ってアイデア出しを手伝う。	型があることで書き出しやすくなり、自分の考えを文章化するスピードが上がった。
書く	漢字練習には取り組むが、テストになるとほとんど書けない。	・担当がワークシートの問題を耳で読み上げる。	正確に書く漢字が増え、進んで練習するようになった。
書く	音楽のイメージや感情を言語化して表現することが難しい。	・様々な形容詞や、「音楽の感じを表す言葉」をまとめたヒントカードを掲示したり手元に置いたりする。 ・「気持ちの尺度」「雰囲気メーター」等の教材を用意し、気持ちや雰囲気の動き(移り変わり)を	ヒントカードを使いながら、自分の言葉で表現できるようになってきた。
書く	漢字を覚えることが難しい。	・漢字を「へん」や「つくり」等に分けて覚える ・書き順を色で示す。	パーツに分けることで、覚えやすくなった。
書く	文章で表現することが難しい。	・図(表やウエイピングマップ等)やイラストで表現してから文章にする。 ・メモした短冊カードの順番を並び替えながら文章にする。 ・「伝えたい事」「説明」の2文構成、「伝えたい事」「理由」「例」「まとめ」の4文構成等のフォーマットを活用する。	短冊カードを使うことで、自分なりに文章を考えられるようになってきた。
書く	鉛筆を正しく持って書くことが難しい。	・プニグリップ等の持ち方補助具を使用する。 ・筆圧が弱くても書ける鉛筆(2B~4B)を使用する。	補助具により指の位置が安定し、疲れずに書けるようになった。

	実態	手立て	評価
対人	授業中、友達や先生に注意されると、教室から出てしまう。	・カームダウンエリア(クールダウンできる場所)を用意する(段ボールハウスやパーティション等)。	パニックになりそうな時に自らその場所へ行き、感情を落ち着かせて戻ることができるようになった。
対人	自分の気持ちや考えを言葉で伝えることができないため、周囲とトラブルになってしまうことがある。	・絵カードや写真、簡単な言葉リストを用いて、視覚的に伝える手段を確保する。 ・語彙を増やす支援を行う。	視覚支援により指示理解がスムーズになり、語彙が増えたことで、他者と関わろうとする姿勢が見られるようになった。
対人	自分の意見が通らないと怒る。	・クールダウンスペースを用意し、物理的に距離を取れるようにする。 ・「〇〇(タイマー等)になったら戻ろう」と、戻る目安を具体的に提示する。	クールダウンを経て自分で気持ちを切り替え、スムーズに次の活動へ移行できるようになった。
対人	自分の世界に入り込んで、まわりの声が届かなくなる。	・聴覚だけでなく視覚に訴える(筆談、カード提示、ジェスチャーなど)。 ・注目してから話しかける。	視覚的な情報を併用することで、注意を向け、落ち着いて話を聞けるようになった。
対人	全てにおいて説明を求める。ひとつひとつ確認して行動する。	・一日の終わりに振り返りの時間を設け、できたことを確認し安心感を与える。 ・「質問タイム」を設定する。	確認行動を受け止めつつ枠組みを作ったことで、不安が軽減し、自己中心的な行動が減った。
対人	友達とのトラブル。	・家庭と学校で連携し、本人が守れそうな約束(目標)を決め、「がんばり表」に取り組む。	目標を可視化したことで約束を守ろうとする意識が向上した。達成できた項目は次のステップへ更新している。
対人	学級のきまりを守ることができない。	・その日のめあてを短冊にして教室前方に貼り、常に意識できるようにする。 ・曜日ごとにめあてを固定し、反復して定着を図る。	めあてを繰り返し視覚的に確認することで、「今何をすべきか」が明確になり、ルールを守る行動が増えた。
対人	自閉的傾向が強く、日課にこだわりがある。みんなと同じ行動をとることが難しい。	・個別のノートやスケジュール表に予定を記入し、見通しを持たせる。	予定が可視化されたことで安心し、スムーズに動けるようになった。集団の流れに乗れる場面が増えた。
対人	一部の友人との関わりしかもたず、大人に対しては反抗的・無気力な言葉を繰り返す。	・本人の得意なことや興味のある「係」や「仕事」を任せる。 ・やり方を具体的に示し、遂行できたことを認めて感謝を伝える。	役割を与えられたことで自己有用感が育ち、意欲的に活動に取り組むようになった。
対人	教室に入れない。別室で過ごす。他の生徒に会うと、パニックになり、ハンカチで顔を拭き続ける。授業時間中しか廊下に出られない。	・登下校や給食など、参加しやすい時間帯からスモールステップで調整する。 ・本人の意思を尊重し、無理強いせず安心できる関係を作る。	別室登校を継続しつつ、人と接するストレスが軽減され、落ち着いて過ごせる時間が増えている。
対人	勝手にトイレに行く。着席しない。授業中、学習と関係ないことをする。	・事前に約束事を決め、振り返りを行う。 ・約束を守れたらシールを貼るなど、トークンエコノミーを活用する。	振り返りと報酬の効果で、自分の行動を意識できるようになり、約束を守れる回数が増えた。
対人	授業中不安定になり、パニックになることがある。	・授業の流れを板書等で明記し、見通しを持たせる。 ・クールダウンのための別室やスペースを確保する。	パニックの頻度が減り、起きた場合でも短時間で回復して教室に戻れるようになった。
対人	周囲からは些細なことに見える出来事でイラつき、離室したりトラブルを起こしたりする。	・休み時間や授業中の特定時間に、教師に相談できるシステム(タイム)を作る。 ・「困ったら相談できる」という安心感を醸成する。	相談によってガス抜きができ、安心感が生まれたことでトラブルが減少した。
対人	学校やクラスの決まりが守れない。	・週ごとに具体的な目標(スモールステップ)を3つほど設定する。 ・点検カードを用い、達成できたらシールで強化する。	シールを集めることが動機付けとなり、意欲的に決まりを守ろうとする姿が見られた。
対人	相手を傷つける攻撃的な言葉を口にする。	・「ふわふわ言葉(肯定)」「チクチク言葉(否定)」などを掲示し、視覚的に区別させる。 ・その場面に適した言い方を具体的にモデリング(提示)する。	適切な言葉を選べるようになり、友人関係の摩擦が減少した。
対人	勝敗が決まるような活動になると、勝ち負けにこだわりパニックを起こす。感情のコントロールができなくなり、友だちに暴言をはいたり手を出したりすることがある。	・活動前に「負けた時の振る舞い」等のルールを確認する。 ・勝敗だけでなく「ルールを守れたこと」を評価対象にする。	約束を確認してから活動することで、感情をコントロールしようとする努力が見られた。
対人	人の気持ちを理解することができず、対人関係でのトラブルが多い。天候や体調などに左右され、気持ちが浮き沈みする。	・教師がサポートしやすい座席配置にする。 ・感情カードを用いて、自分の気持ちや相手の気持ちを視覚的に確認する練習をする。	絵カードを通して自分の感情を客観視し、相手に伝えようとする姿が見られるようになった。
対人	友だちやクラスの子に対してちょっかいを出したり、落ち着きのない行動がおおく、トラブルも多	・連絡帳を活用し、学校での「良い行動」を家庭に伝え、家庭でも褒めてもらうサイクルを作る。	家庭と連携して褒めることで承認欲求が満たされ、肯定的な行動が増えた。
対人	日によって感情が不安定になる。	・登校時に自分の感情や体調を「赤・黄・青」などのマグネットで表示させる(感情の可視化)。	自分の状態を周囲に知らせる手段を得たことで、メタ認知につながり、支援を求めやすくなった。
コミュ	相手の状況を考慮せず、一方的に話す。語彙が少なく、相手に伝わるように話すことが苦手。	・ソーシャルスキルトレーニング(SST)として、イラストカード等で場面ごとの適切な振る舞いを具体的に教える。	会話のズレはあるものの、具体的な対処法を知ったことでトラブルは減少傾向にある。
コミュ	話すことが苦手なため、自分の気持ちを伝えることが難しい。	・感情カードや意思表示カードを用意し、指差しや提示で伝えられるようにする。 ・筆談などの代替手段を確保する。	言語化の負担を減らしたことで、自分の意思を伝えやすくなった。
コミュ	場に応じた声の大きさにすることが難しく、いつでも大きな声を出す。	・「声のものさし(声の大きさ表)」を掲示し、場面に応じた数値を具体的に指示する(例:「今は『2』の声だよ」)。	具体的な数値で指示されることでイメージが湧きやすく、声の大きさを意識して調整できるようになった。
コミュ	相手の心情を察したり理解したりすることが難しい。	・ロールプレイングを行い、他者の立場を体験する。 ・イラストや図を使って、状況や感情を視覚的に説明する。	具体的な演習や視覚支援を通して、相手の視点に立つ意識が芽生えてきた。

	実態	手立て	評価
注意	なかなか集中しきれず、友達が気になって、今、行うべきことに、取り組めない。	・指示は一度に一つとし、短く具体的に伝える。 ・座席は刺激の少ない教卓周辺や、落ち着いたモデルとなる児童の近くにする。 ・課題が終わるごとに細かく評価(称賛)する。	指示を一つに絞ることで迷いがなくなり、課題に取り組みやすくなった。こまめな称賛により自己肯定感が高まり、自信を持って活動している。
注意	集中ができない児童	・教室前面のロッカーにカーテンをつける等、視覚的なノイズを減らす(シンプル化)。 ・指示を具体的かつ明瞭にする。 ・机上の不要なものはしまわせる。	視覚的な刺激を減らしたことで、集中できる時間が徐々に長くなってきた。
注意	物の整理が出来ず、大切な物を紛失する。	・机に入らない物を入れる専用のカゴを用意する。 ・重要な配布物は、保護者へメール等の連絡	収納場所を明確にしたことで床への散乱がなくなった。保護者との連携により、プリントの未提出や紛失が減少した。
注意	集中力が長続きせず、10問の問題を通して解くことが難しい。	・プリントを拡大コピーしたり、折って問題数を隠したりして、一度に見える情報量を減らす。 ・小刻みに丸付けを行い、「できた」という達成感を持たせて次へ促す。	問題量を調整したことで、途中で諦めることなく最後まで解き続けることができた。
注意	学校に忘れ物が多く、宿題も家に持ち帰りを忘れ、学習が遅れる。	・下校前に、持ち物リストやチェック表を用いて本人と一緒に確認する時間を設ける。	視覚的なチェック表を活用することで、自分で確認する習慣が付き、忘れ物が減少した。
注意	忘れ物が多い。	・教科ごとに教科書やノートをまとめる(ゴム留めや専用ケースの活用)。 ・連絡帳や提出物を入れる「手紙ファイル」を用意し、帰りの会で確認する。 ・返信が必要なものは目立つ工夫をしたファイルに入れる。	整理整頓のハードルを下げたことで、忘れ物が減り、物の管理がスムーズになった。
多動	体育や音楽室での音楽など、自分の椅子がない場所での授業では落ち着いて座っていられず動き回ってしまう。	・入室前に活動の流れを説明し、見通しを持たせる。 ・「座る場所」「活動エリア」をラインやマーカーで視覚的に明確にする。 ・ルールを守れている瞬間に注目し、即座に褒める。	自分の居場所が明確になったことで、指定された場所で活動できるようになった。見通しを持つことで待つこともできている。
多動	落ち着きがなく、離席が目立つ。学習に関係ないおしゃべりが多い。	・注目を引くための行動(離席等)には反応せず(計画的無視)、適切な行動をとっている時に注目して称賛する。 ・離席から戻った瞬間や、静かにしている瞬間に「座っているね」「話を聞いてくれてありがとう」と肯定的なフィードバックを行う。	適切な行動をした時に注目されると学習し、離席やおしゃべりが減少し、望ましい行動が増えた。
多動	気になる児童を含め、全体的に落ち着かない雰囲気があった。活動ごとの切り替えができなくて、ざわつきや騒々しさがあった。	・「すわる」「かく」「きく」等の絵カードや文字カードを黒板に貼り、今の活動を視覚的に明示する。	掲示されたカードを見ることで、口頭注意を受けなくても自ら状況を判断し、静かになる児童が増えた。
多動	教室の中に落ち着いてられない。授業中フラフラする。	・「お出かけカード」等のルールを設け、許可を得て離席できる仕組みを作る(不適切行動としての離席を防ぐ)。 ・リフレッシュとして認める。	ルール化することで無断離席がなくなり、適切な手順で気分転換をして戻ってこられるようになった。
衝動	自分の思い通りにならないと、その場を怒りの感情を表出(暴言)しながら校舎内をうろついてしまう。自分にとって意味のないものや関心やる気のないことには「やらねー」と全く取り組もうとしないことがある。	・「がんばりカード」を用意し、スモールステップ(課題に取り組む、行事に参加する等)で評価し、シール等で可視化する。 ・「ここまでやればOK」というゴールを事前に共有・合意する。	見通しと報酬(シール等)があることで、苦手な課題にも少しずつ意欲を見せるようになってきた。
衝動	大声を出したり、暴言を吐いたり、暴力をふるう。	・大声に対しては、あえて小さな声で冷静に対応する(感情的に反応しない)。 ・不適切な行動ではなく、言葉で気持ちを伝えるなどの適切な代替行動を教える。	騒いでも要求が通らないことを学び、大声や暴言が減少した。適切な伝え方を少しずつ習得している。
衝動	自分がやりたいと感じたときに周囲の状況を考えずに行動する。	・「今はダメだが、いつならできるか」という代替案や時間を具体的に提示する。 ・我慢できている瞬間を見逃さずに褒める。	「できる時間」が保証されたことで、周囲の状況を見て一旦立ち止まり、待つことができる場面が増えた。
衝動	自分のやりたいことを押さえられなかったり、集中して話を聞いていなかったりして集団行動ができないことがある。	・不必要な視覚・聴覚刺激を遮断する。 ・活動の手順に番号を振るなどして構造化(視覚化)し、何をすべきか明確にする。	手順が明確になったことで、集団と同じペースで活動に参加できるようになってきている。

作業部会資料「文例集」変化への適応

	実態	手立て	評価
変化	テスト直しの時間内に終わらないと、提出ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「テスト直し入れ」と表示した提出用のかごを用意する。 ・時間内に終わらない場合のルール(「かごに出す」等)を視覚的に示し、全体で確認する。 ・提出できたプロセス自体を認め、称賛する。 	事前にルールを確認し、視覚的な手がかりを用意したことで、時間内に終わらない場合も焦らずかごへ提出できるようになった。
変化	集団行動に遅れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるように、授業の最初に黒板に大まかな流れを書く。 ・個別のスケジュール表や絵カードを用意し、手元で確認できるようにする。 	黒板や手元のスケジュールを確認し、切り替えのタイミングを把握することで、自分から次の活動へ参加できるようになった。
変化	授業中に、集中が続かず、飽きてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> ・注意散漫にならないように、黒板周辺や教室前面の掲示物を減らし、刺激を統制する。 ・モジュール(15分単位など)で活動を区切り、適度な変化をつける。 ・プリント配りなどの「役割」を与え、達成感や所属感を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室前面の環境をシンプルにしたことで、黒板や電子黒板への注目が高まった。 ・活動を短く区切ることで、気持ちをリフレッシュさせながら集中を持続できるようになった。 ・役割活動を通して、意欲的に授業に参加する姿が見られた。
変化	一日の予定がわからなかったり、急な予定変更があると、パニックになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の予定をホワイトボードに貼り、視覚的な見通しを持たせる。 ・朝の会で日課を確認する。 ・変更時は、ホワイトボードに赤字で修正しつつ、口頭でも丁寧に説明する。 ・個別に予告を行い、心の準備をさせる。 	予定や変更を視覚と聴覚の両方で事前に確認したことで、見通しを持って落ち着いて行動できるようになった。不安な時は自分でボードを確認している。
変化	情緒が乱れると、気持ちの切りかえに時間がかかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが不安定になった際に、言語化できなくても伝えられるよう「感情イラストカード」を用意する。 ・クールダウンのための別室利用ルール(「行ってきますカード」の使用等)を共有する。 ・自分で気持ちを切り替えられた際は、その努 	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラや不安をカードで伝えられるようになり、トラブルが未然に防げている。 ・ルールに基づいてクールダウンを行い、落ち着いて教室に戻れるようになった。肯定的な声かけにより、切り替えの時間も短縮している。